

1 いい子です薬で心制御する

課題吟ではないかと思う。(題は不明) 上五で意味の切れを作っているが、上下を逆にすると「薬で心を制御するいい子」となり、「いい子」の説明になっている。

2 バスが来るまでに覚悟を決めなくちゃ

「バスが来るまでに」が面白い。「覚悟を決める」状況のバス停に、一人でいるのかか二人でいるのか(複数人)で、読み手が連想する状況に差が出るが、そこがいいところではないか。

3 さよならとさようならとの深い溝

別れの言葉の言い方による軽重を、下五が考えさせてくれる。

4 馬の目に予想はただのお念仏

パドックの風景。「ただのお念仏」はくどいか。

5 花いちもんめ昔の顔で寄る仲間

「花いちもんめ」の歌詞と、久しぶりに顔を合わせた幼馴染の風景。「昔の顔」という表現がくどいか。

6 今一度ガラガラポンにしてみたい

連作の中の一句であれば、面白い。具体性がなくても理解できるが、具体性があったほうがいいのかどうか検討してみたい。

7 嘘吐きは泡沫候補にはなれず

正直者＝泡沫候補、なら有力候補は嘘つき、という表現だが、ひねりが過ぎるのでは。

8 百均店回れば見える資本主義

上五と下五の言葉のイメージが違いすぎる(硬軟・軽重) 下五(資本主義)という言葉まで持ち出すほどの事かどうか検討。

9 雨だれに音符が跳ねる古バケツ

「古いバケツに雨が落ち、それが音階を奏でているように聞こえる」という状況の説明。「音符が跳ねる」という部分に作者の思いが見える。

10 外国の嫁が主力の農作業

現在もそうなのだろうが、題材的には古い。

11 連行と拉致の違いが問われてる

時事。同義語をぶつける事による効果について、検討。

強制に広義狭義という

12 今更に夫の偉さ知る自給

下五が面白い。中七が生きる。

13 一球が正札ついたように見え

甲子園、西武ライオンズの裏金、松坂、と時事ではあるが、広く連想させる作品。

14 後継ぎという捨石を村に置き

日本の家庭、また伝統といったものが危機に瀕しているというイメージが浮かぶ。秀逸。

15 何の列サア何でしょうでも並ぶ

「サア」のカタカナ表記が面白いが、この部分の検討。

16 まとめ売り中へうっかり稀購本

古本屋さんの売る側の立場、もしくはゴミに出す家人の立場、と読み手のとり方が分かれる可能性がある。

17 肩書きを信じ人格見損なう

「まさか、あの人が」というパターン。面白い。秀逸

18 投げた匙拾ってくれた菩薩様

「匙を投げたのは医者」と理解すると、いい作品。

19 本当の敵は隣で高軒

「隣」というところまで緊張させる言葉で、「軒」という言葉で落としている。「敵」とはなんだというところは読者に委ねていいだろう。秀逸

20 ずっと先ポックリ願う札潜め

ポックリはポックリ寺と理解。そこで上五との対比で、人間のおかしさが見える。